

氏名	佐藤 理
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 3500 号
学位授与の日付	平成12年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Value of thallium-201 scintigraphy in bone and soft tissue tumors (骨軟部腫瘍における <sup>201</sup> Tlシンチグラフィの意義)
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 清野 佳紀 教授 田中 紀章

#### 学位論文内容の要旨

骨軟部腫瘍における<sup>201</sup>Tlシンチグラフィの有用性を80人の患者で検討した。<sup>201</sup>Tlの集積は、悪性骨腫瘍では17例全例(100%)で陽性、GCTでも6例全例(100%)で陽性であったのに対して、良性骨腫瘍では8例中2例(25%)のみで陽性を呈した。悪性軟部腫瘍では30例中19例(63%)で陽性であったが、良性軟部腫瘍では14例中2例(14%)のみで陽性を呈した。また、脂肪肉腫では6例全例で集積を認めなかった。

10例の骨肉腫症例の化学療法前後で<sup>201</sup>Tlシンチグラフィが施行された。その結果T/N比の変化と切除した腫瘍の組織学的壊死率との間に有意な関連が認められた。90%以上の壊死率を認めた症例のT/N比の減少率は平均71%であったのに対して、壊死率90%未満の症例のT/N比減少率は平均26%であった。<sup>201</sup>Tlシンチグラフィは、その集積率の変化を定量的に評価することにより、悪性骨腫瘍の患者の術前化学療法の効果を定量的、客観的に評価することができる有用な検査と考えられた。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、骨軟部腫瘍80例について<sup>201</sup>Tlシンチグラフィを施行し、その意義を検討した臨床的研究である。特に骨肉腫10例では術前化学療法の前後で行い、<sup>201</sup>Tl集積の変化と化学療法後の腫瘍切除標本の組織学的所見を対比検討している。その結果、<sup>201</sup>Tlシンチグラフィは骨軟部腫瘍の質的診断に有用であること、また<sup>201</sup>Tl集積率の変化と切除した腫瘍の組織学的壊死率との間に有意な相関が認められることを明らかにしている。これらは、<sup>201</sup>Tlシンチグラフィによる骨軟部腫瘍の診断ならびに悪性骨腫瘍の術前化学療法効果判定に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。